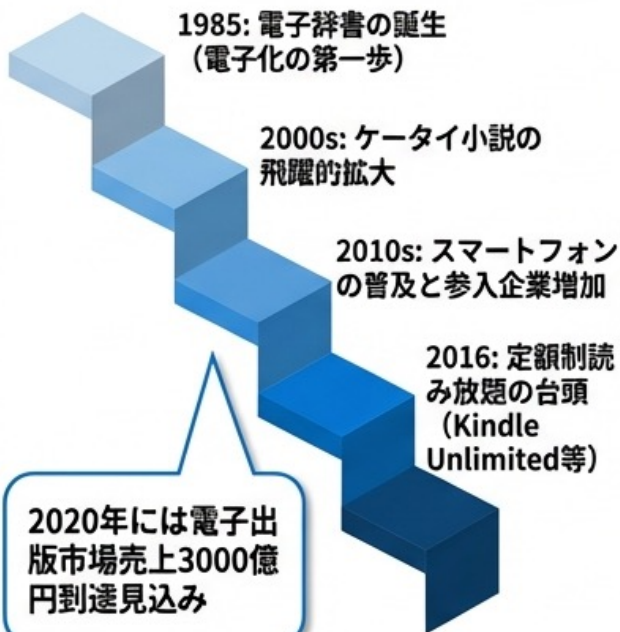


電子書籍の普及と読書スタイルの変容：デジタル時代の読書行動分析

背景と市場推移

【背景と仮説】音楽配信サービスに比べ、電子書籍の普及は限定的。紙書籍が依然として主流に残る要因は、「読書スタイルの変化」にあるのではないかと？



実証実験と行動変化

【実証実験概要】大学生6名 / 1週間 / 電子書籍 (小説) を使用 / 日々の読書行動記録と理解力テストを実施。



主な読書環境は「電車の中・移動中」へシフト。普段本を持ち歩かない層も読書可能に。



1回の読書時間は「20~30分」が最多。スキマ時間の活用。



「暗い環境」や「寝転びながら」の読書が定着。場所と時間の制約から解放。

考察と今後の課題

	紙書籍	電子書籍
持ち運び	✗ 不便	○ 外出時の読書機会増
環境制約	✗ 照明が必要	○ 暗所・寝転び読書可能
読みやすさ	○ 慣れがあり読みやすい	△ 個人の慣れに依存
集中力	○ 読書に専念	✗ 通知による分断



スマートフォンという多機能デバイスの特性上、通知によって読書への集中力が持続しにくい課題が浮き彫りに。

【結論】読書スタイルは多様化している。電子書籍の利点 (携帯性・環境フリー) を活かしつつ、読書に集中するための「環境設定の工夫」をユーザー自身が行うことが、今後の普及の鍵となる。